



あなたの未来に笑顔と元気を！

スマイル通信

Sato-Kazuko Smile report

2022年 春号

〒982-0804 仙台市太白区鉤取2丁目1-3 TEL&FAX 022-245-7245
E-mail:sato@sendai-komei.jp URL http://www.sato-kazuko.net

一人の声を大切に！100万人の笑顔のために！

この度、3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震では、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。第1回定例会において令和4年度予算を審議する議会質問等の報告として「さとう和子スマイル通信2022年春号」を作成いたしました。ご一読いただければ幸いです。今議会では、「ロシアによるウクライナの軍事侵攻に対する抗議に関する件」を決議しました。新年度事業には、これまでの議会質問や毎年の予算要望等で長年求めてきた多くのことが予算に盛り込まれました。一日も早い停戦とウクライナの平和を祈り、コロナ感染対策、経済活動の再生、災害対策など市政の課題に全力で取り組んでまいります。

2022年4月吉日 仙台市議会議員 さとう和子

3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震に関する要望書提出！

3月28日、公明党宮城県本部として村井県知事に緊急要望を行ないました。

1. 激甚災害等の指定
2. 公共インフラ施設・文化財施設の早期復旧
3. 災害救助法の適用にならない一部損壊認定の救済
4. 事業者等の支援

について求めました。3月18日、コロナ禍、地震と度重なる甚大な被害を受けた秋保温泉の宿泊施設の被災状況と復旧への要望を伺いました。



令和4年度から育児ヘルプサービスが拡充！「産後ドゥーラ」のサポートが受けられます！



「産後ドゥーラ」とは、産後間もない母親に寄り添って家事や育児をサポートする民間資格を取得した人です。



2019年9月28日、一般社団法人「ドゥーラ協会」(東京都中野区)を視察。代表理事であり松が丘助産院の宗祥子院長、産後ドゥーラの梁川妙子理事から産後ケアの現状を伺いました。同年10月1日の一般質問で晩婚化・晩産化の傾向や産前産後の母親をサポートする子育て環境の変化、誰にでも起こり得る産後うつや児童虐待防止のため産後ケアの拡充を求めて、「産後ドゥーラ」の民間活用を訴えてきました。

その後、公明党宮城県本部主催「産後ケア研修会」の開催(2019年12月)、仙台市議会子育て環境充実調査特別委員会で委員長を務め、有識者の意見聴取としてお二人の講演(2021年4月・オンライン)を聴講し調査を重ね、粘り強く訴えてきました。新年度より、仙台市の委託事業者として「ドゥーラせんだい」が新規参入となりました。今後も利用しやすく、必要な人に届くよう取り組んでまいります。



◆◆ 予算等審査特別委員会 健康福祉費 ◆◆

(令和4年2月28日)

◆乳がん検診の検診体制を受診者目線の見直しを求めました！



Q: 平成28年2月、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針の一部改正について」の国の通知は「乳がん検診の視触診は推奨しないが、仮に実施する場合は、マンモグラフィと併せて実施すること」である。この改正を受け、本市の乳がん検診は40歳～69歳はマンモグラフィと視触診の併用検診を継続している。どのような理由で併用検診を実施しているのか、視触診についての見解も伺う。

A: 市としては、国の指針を踏まえつつ、医師等の専門家で構成される乳がん検診精度管理委員会において、平成29年度に検討を行なっている。そこでの意見を踏まえ、40歳以上については、それまで実施していた視触診とマンモグラフィの併用による検診を継続することにしたものである。

Q: 本市の検診方法の流れは、マンモグラフィ撮影の医療機関で撮影後、その画像(B4程度の大きさ)を持って、視触診の医療機関で検診を受けることになっている。2つの医療機関に行かなければならない。働く世代から、「同一病院で検診が受けられないか」との声が毎年のように寄せられ、今回の質問にあたって行なった聞き取り調査でも多く聞かれた。乳がんの早期発見、受診者の利便性向上の取り組みとして、国の通知にあるように、触診についての有効性を含め、もう一度、検診体制のしくみを検討していただきたい。

A: (健康福祉局長)市民が検診を受診しやすい環境づくりも重要であると認識している。引き続き、受診者の利便性といった観点も十分に踏まえながら、具体的な手法も含め、精度管理委員会や健診団体などの関係機関と検討を重ねてまいりたい。

Q: 40代、50代は仕事、子育て、介護等、家族のことが優先で自分のことは後回しになりがちな世代である。しかし、その世代が罹患が多い状況である。横浜市のように、選択制導入やマンモグラフィのみを希望できるようにと思う。検診場所については、受診者側に立って1か所で受けられるように改善すべき。

A: (郡市長答弁) これまでも、受診者の負担軽減を図る観点から、70歳以上の方について、受診を一か所で完結できるよう見直すなどしてきたところである。今後、これをさらに他の年齢層へ拡大することを含め、専門家や関係機関とも検討しながら受診しやすい環境の整備に努めてまいりたい。

◆その他の主な質問項目

◎「ブレスト・アウェアネス」の普及啓発

◎新生児誕生祝福事業の対象拡大

カタログギフト(3万円相当)の品目について、市図書館の新規事業「赤ちゃんと絵本のふれあい事業」の案内とともに絵本を加えること。
地域ブランド「都の杜・仙台」企業への働きかけ

◎育児ヘルプ家庭訪問事業・産後ケア事業の周知強化、子育て関係の申請のデジタル化

◎在宅の重度障がい児者の災害対策について

- ・人工呼吸器やたんの吸引等を必要としている重度障がい児者にとって、災害時等で停電が発生した際、電源の確保は命を守るため大変重要である。自家発電機とバッテリーの補助を求めました。
- ・福祉避難所の事前登録制

こちらから予算等
審査特別委員会の動画が
ご覧になれます



* 国の「令和3年度市区町村におけるがん検診の実施状況調査 全国集計」によると、視触診を実施しているのは27.5%。前回調査した平成28年度の83.5%から大きく下がっている。国の改正に準じて全国的に触診が廃止の方向になっている

* ブレスト・アウェアネスとは：自分の乳房の状態を日頃から関心を持ち、乳房を意識して生活することで、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療につながる女性にとって、とても重要な生活習慣のこと

◆都市整備建設委員会◆

(令和4年1月21日・2月22日)

◎安全・安心を支える地下鉄の施設について

地下鉄のバリアフリーの取り組み、防犯カメラの設置、防犯訓練、非常通報施設の市民への周知強化、車いす対応の券売機整備、市営バスの上屋及びベンチ設置状況と宮城交通への働きかけ

◎宅地擁壁の安全対策工事に係る支援制度について、管理組合や企業等へ対象拡大、所有者への丁寧な対応、個別通知も含め周知強化



令和4年度の新規事業(拡充・継続)で実現！
皆さまの声をカタチにしました！

■コロナ感染の影響を受けた事業者(個人事業者・法人)支援の「中小企業等事業復活支援給付金」が売上高減少率50%以上→30%以上50%未満へ対象拡大

■新生児聴覚検査費用助成

山口津世子前仙台市議会議員が約20年前から取り上げ、宮城県・仙台市内で署名活動を展開し求めてきたものです

■産後ケアの申請手続きの電子化

■新生児誕生祝福事業

■産後ケア事業の支援期間が生後4か月から生後1年までに延長。サポートがショートステイとデイサービスに加え訪問型を導入。

■若年・子育て世帯住み替え支援事業

■生理用品の配布や相談事業など困難を抱える女性への支援

■いずみ墓園内に新形式墓所(合葬型)整備 貸出開始は令和5年度予定

■ご遺族サポート窓口設置 全区・総合支所で開設



東北大学の最先端技術・研究を視察

1月11日、「新型コロナウイルスの下水疫学調査の技術開発と実用化の現状」北海道大学大学院工学研究院環境工学部門 北島正章准教授、「感染症適応社会の確立に向けた下水水質情報の活用に関する取り組み」東北大学大学院工学研究科 佐野大輔教授の講演。下水調査でコロナ感染陽性者数を予測。その情報を発信している。仙台市南蒲生浄化センターで採水している。

4月8日、東日本大震災からの創造的復興に向けて、2012年に設立された「東北メディカル・メガバンク機構」を視察。東北メディカル・メガバンク計画の進捗状況、「ナトカリチャレンジ」の取り組みについて。



* ナトカリ比:塩分(ナトリウム)と野菜・果物摂取(カリウム)のバランスを表す指標

視察・活動

- 2021年みやぎ生協仙台市議会議員懇談会参加（1月17日）
- 特定非営利活動法人キミノトナリ代表 東田美香氏の講演「にんしんSOS 仙台の現場から」研修会参加（1月24日）
- 第3回人生100年時代調査特別委員会「人が繋がるスポーツとエクササイズ」と題して東北大学大学院 医工学研究科長・教授 永富良一氏の講演（1月25日）
- 「聴覚のフレイル=ヒヤリングフレイル予防の取り組み」と題して、ユニバーサル・サウンドデザイン(株)代表取締役 聴脳科学総合研究所所長 中石真一路氏の聴講・会派視察（2月14日・オンライン）
- 青葉山エリアのまちづくりの現地視察。音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合整備、仙台城跡整備(大手門復元エリア・城郭らしい景観づくり)、全国都市緑化仙台フェア(令和5年開催)、青葉山公園整備・公園センター(仙臺緑彩館)（2月14日）



- みやぎ東日本大震災津波伝承館・震災遺構門脇小学校の視察（3月5日・石巻市）

- 東日本大震災仙台市追悼式（3月11日・若林文化センター）

- 「全ての生命の価値は等しい」という理念を実現するため、貧困問題の解決、感染症の予防・対策などに取り組んでいる「ビル&メリンダ・ゲイツ財団」日本代表 柏倉美保子氏の国際保健(グローバルヘルス)について聴講（3月14日・オンライン）

- 東北第一号となる泉区七北田公園都市緑化ホール内に設置されているベビーケアルーム「mamamoro2」を会派視察。子育てしやすい環境づくりを推進しているKaziプロジェクト(仙台市を拠点に活動する任意団体)の取り組みです。完全個室で授乳・離乳食・おむつ交換が可能。男性も利用可能。三陸道のむすび丸春日パーキングエリアにも設置（3月15日）



- 仙台市議会タブレット活用フォローアップ研修会参加（3月22日）

- 旗立緑地(山田北前町)既設法枠調査に関する住民説明会参加（3月27日）

- 一人ひとりが大事にされる、新たな災害復興法を目指して、「災害ケースマネジメント」について、日本弁護士連合会災害復興支援委員会前委員長 兵庫県弁護士会会長 津久井進氏聴講（3月29日・オンライン）



- 「仙台赤十字病院の移転に反対する要望書」提出（3月11日）

3月11日、太白地域町内会連合会の皆様が郡市長へ署名簿とともに提出。同じく3月25日、村井県知事へ提出しました。仙台市は4回に渡り開催した「仙台市の医療提供体制に関する懇話会」での意見、市議会における議論、市民等から要望などを踏まえ、3月31日、市の考えを県に提出。将来にわたり

持続可能な医療提供体制を確保するため、積極的な情報提供に努め、市民や医療関係者などの声に耳を傾け慎重に議論を進めていくよう求めています。

